

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371600731		
法人名	杉友商事株式会社		
事業所名	グループホームあすなる 2F		
所在地	愛知県名古屋市長区島田2丁目621番地		
自己評価作成日	平成26年12月31日	評価結果市町村受理日	平成27年5月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市長区百人町26番地 スクエア百人町1F		
訪問調査日	平成27年1月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『入居者がゆったり楽しく生き生きと暮らして行けるように支援する』理念を念頭に入れ、入居者様に寄り添い笑顔がみられるように支援している。自ら行動し希望を言葉で表現できない御入居者には生活歴や日々の表情より好きな事、喜ばれる事を推測し、穏やかに暮らせるように支援している。散歩や買い物に出かけたり、月1回の外出、外食、喫茶に出かけ外出支援している。また馴染みの場所や喜ばれる場所へ個別に外出支援している。介護度が重度で座位が保てない入居者様に対し、個別に室内でゆったり過ごせるようにしている。年2回のバス旅行と地区の農家との触れ合いを楽しみながらのみかん、柿狩り、さつま芋堀りを行なっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は「心に寄り添う介護」をモットーに、いつも傍に寄り添い一人ひとりに合わせたケアに努めている。また、職員は、それぞれ年間目標とその実現のために3ヶ月ごとに介護目標をたて、サービスの向上にも努めている。職員が見守る家庭的な環境の中で、利用者はおしゃべりや食事の準備・洗い物などを行い、ゆったり生き生きと暮らしている。また、やりたい事(絵手紙の講座・エコキャップ集めなど)や行きたい場所(神社・喫茶店など)には、個別支援で楽しんでいる。地域に密着したホームを目指し、事業所の夏祭りには回覧板やポスターなどで呼びかけ、浴衣や甚平を着た利用者は、地域の人とスイカ割りや輪投げなどして楽しく過ごした。また、散歩時には挨拶を心がけ、軍手とゴミ袋を持参してのゴミ拾い運動も行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し共有するようにしている。ユニット会議で理念を踏まえた月の目標を立てて実践し評価しフィードバックしている。スタッフルーム、玄関、事務所に理念を掲示している。	法人の理念と、職員で考えた「利用者を尊重し明るく笑顔あふれるホーム」の理念がある。また、理念を踏まえ月目標を決め、ケアについて統一を図っている。職員は一人ひとりの個性を尊重し、その人に合わせた支援を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩、買い物時に地区の方と挨拶を交わしている。地区の中学校生徒が毎年訪問し交流している。地区の農家にみかん狩り、さつま芋堀りに出かけている。	町内会に加入し利用者と一緒に回覧板を回したり、地域の行事に参加している。また、散歩時にはゴミ拾い運動も実施している。事業所の夏祭りには回覧板やポスターで参加を呼びかけ、利用者はゲームなどで地域住民と楽しく過ごした。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学者に対し実践内容を説明している。実習生の受け入れも行って支援の方法の理解を深められるようにしている。ボランティアに車椅子介助、歩行介助を指導し、外出時に同行、支援して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進委員に報告し意見、感想を伺って、今後のサービスに活かしている。地区の行事を教えて頂き参加する機会が増やせるよう検討している。	会議は偶数月に開催し、スライドを見ながら活動報告を行い、利用者が自分の写真が出ると感想などを発言している。また、メンバーから情報や助言を得て運営に反映するよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員として1回/2ヶ月の会議に参加して頂き連携を取っている。生活保護係の担当者とも情報提供、連絡を取っている。包括支援センター職員に徘徊見守り事業の説明を受け御家族へも説明している。	区役所には認定更新時や生活保護関係で毎月出向いたり、散歩の途中に立ち寄ってパンフレットを貰うことがある。また、分からないことや困ったことがあれば相談し、連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な研修を毎年行い、共有認識しケアを振り返り、拘束のないケアを目指している。玄関の施錠のみご家族の理解の上、実施している。スピーチロックについても学び、実践している。	職員は実例を挙げ何が身体拘束にあたるか研修を行い、その内容と弊害について理解している。ホームは3階建ての2・3階にあるので、1階の玄関は契約時家族に説明して施錠している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年定期的な研修を行い理解を深めている。ユニット会議でケアを振り返り、共有理解し虐待防止している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ユニット会議で研修し理解を深めるようにしている。が、職員の理解が不十分で認識出来ていない事がある。権利擁護については必要時施設長、管理者で対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分時間をかけ説明、理解を得ている。改定時においても説明をし同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置、来訪時やTEL連絡時に意見、要望を聞いている。会議で苦情対応の研修を行い、苦情報告書を基に検討し再発防止、サービスの向上に生かしている。	利用者は日々の関わりの中で、家族は面会時や年2回(3月・9月)家族同士の交流の場などで意見や要望を聞いている。家族の要望で、職員の顔写真の掲示と名札を付けることになった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全事業所で年2回社員アンケート調査を行い、意見、提案の把握をし運営に反映させている。また随時個別面談を実施し、意見を聞いている。	職員は朝の申し送り時や月2回の会議・個人面談などで意見や提案をしている。また、法人内でのアンケート調査でも業務改善などを提案している。管理者は日頃から職員に声をかけ、悩みや困っている事がないか聞くように心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	アンケート、面談等の結果を踏まえやりがいのある職場環境作りに努力している。年2回の人事考課により職員の資質を把握しやりがいもてるよう反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルに合う外部研修を奨め、シフトの調整をしている。年間計画を基に各ユニットで総合研修、認知症研修を行っている。レベルアップできるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の際同業者との交流があり情報交換している。社内交流会、研修時に他事業所との交流があり情報、意見交換している。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談において十分アセスメントを行い、要望を聞いている。入居されてからは言動、表情を観察し、寄り添い不安のない生活ができるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の話聞き要望を取り入れ介護計画立案に参加して頂きケアサービスの内容を話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の話聞き状況把握し、要望に沿った支援をしている。各種のサービスがあることの説明をしている。1Fデイサービスと協力し、日中デイを利用できる曜日を設けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と共に家事活動を行い、入居者様の力を引き出しつつ、家事活動における知恵、教えを頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通信により毎月の様子を報告し情報を共有している。面会の少ないご家族には月1回はTEL連絡し、要望を聞き支援の仕方を相談している。信頼関係を築いた上で、通院介助や外出支援の協力を依頼している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族を通じ知人、友人の訪問を働きかけている。馴染みの寺社、喫茶店等への外出支援をしている。	友人の来訪や手紙のやり取り・電話の取り次ぎなど今までの関係が継続できるよう支援している。また、家族の協力を得て、昔からの馴染みの美容院や喫茶店・お墓参りなどその人の生活習慣も大切にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	気の合う入居者同士での散歩や買い物の 支援をしている。食卓席の配慮をしたり仲間 同士での喫茶外出やカラオケ外出支援をして いる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られた場合情報提供をし不安な く過ごせるよう係っている。入院時にはご家 族や医師、看護師との連絡を保ち、経過報 告やその後のケアについて相談を受けれる ようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	意志疎通が困難で希望を表現できない入居 者様に関しては生活歴や趣味、本人の表情 から推測判断し意向に沿えるよう努めてい る。ご家族からの言葉も参考にしている。	利用者にやりたいことを聞き出して、役割を 作り(花の水やり、食事の後片付け等)出来る ことを手伝ってもらっている。把握が困難な人 でも、好きな事や楽しめる事を表情や行動に より把握できるよう、常に利用者に向き合うこ とに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	入居時の面談で聞き取りしている。不明瞭 なことは面会時に聞き取りしたり本人の記憶 をたどり聞きだしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	研修でアセスメントの大切さを学び、定期的 にアセスメントシートに出来る事、できない事 等を記入し更新している。個人日誌に毎日 の暮らしの様子を記入し把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	月に2名ずつのカンファレンスを行い、ケア についてモニタリングしている。ご家族、職 員の意見を反映し、見直しをし現状に即した プランを作成している。	3～4ヶ月ごとの生活シートを基にカンファ レンスを行っている。家族からは、プランにつ いて意見や要望を聞いている。職員が気付い ていない所を家族から意見をもらい、プラン に取り入れたこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に日々の様子を記入し本人様が発した言葉は赤字で記入し、職員間で情報共有している。発した言葉や心理状況をケアプランの生活支援の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービスを利用したり連携し行事を共に行なっている。状況に応じて生じるニーズに柔軟に対応できるようサービス支援の方法を他事業所と連携する等検討している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアとの交流や地域の買い物での触れ合いにより豊かに暮らしている。公共施設を利用し社会見学を実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に希望のかかりつけ医を聞いている。ホームドクターの他ご家族希望の係りつけ医への受診、通院介助を支援している。緊急時ご家族の希望を聞きつつ医師と連携を取るようにしている。	月2回、利用者全員に協力医による往診があり、毎週2回の訪問看護が実施されている。専門医などの受診には家族に協力してもらっているが、要望に応じて事業所でも対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設しているデイサービスの看護師に相談したり、週1回の訪問看護時に情報交換、アドバイスを受けている。ホームドクターの往診時や急変時に看護師に情報を伝え相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供し、状況の把握に努めている。入院中及び退院時にはご家族、病院関係者との情報交換を密にし関係づくりをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合についての指針の説明を入所、契約時に行っている。また状況変化に対応し面会時に話し合いしている。本人、ご家族の意向を尊重しつつ方針を決定し医療、訪問看護との連携を図っている。	重度化した場合は、その都度家族、本人、医師と相談し、同意のもとに進めている。看取りについては、ホームで出来る事、出来ない事を説明し出来る限り家族の意向に沿う支援が出来るように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応についてマニュアルを基にユニット会議で研修を行っている。初期対応の訓練を実践している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練を行っている。夜勤体制での避難を想定しての訓練も行っている。町内会の消防団との連携をとり応援要請をお願いしている。消防署からもアドバイスを受けている。	年2回の訓練を実施しており、1回は夜間を想定し、職員1人体制で訓練を実施している。消火器の使い方や通報の仕方、利用者の誘導などを行っている。訓練当日は、町内の消防団長に応援要請をしている。また、地域の防災訓練には、利用者と一緒に参加している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修で倫理、尊厳、接遇の研修をしている。一人ひとりの尊厳、プライバシーを大切に、その方に合った言葉かけ、対応をしている。	プライバシーや羞恥心への配慮は常に注意している。一人ひとり対応の仕方は違うので、それぞれの思いを受け入れる姿勢で接するようにしている。管理者からもその都度指導を受けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に問いかけ、情報提供して自己決定できるよう支援している。表現出来ない方には表情、仕草、態度から察し汲み取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の意向を大切に希望に沿うよう支援している。心地よい笑顔が見られるよう寄り添っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望、体形に合った衣類をご家族と相談して用意している。選べる方にはご本人に確認している。髪型もその人らしく美容師に注文している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員と一緒に調理、配膳、片付けをしている。立位が保てない方は座って食材切りに参加されている。フリーの献立時は好みの物や得意料理のメニューと一緒に考え取り入れている。	配食業者の献立を利用しているが、調理は職員がアレンジして作っている。週1回フリーメニューの日があり、利用者と職員が献立作りから買物まで行っている。ミキサー食やきざみ食など利用者の状態に合わせた食事の提供をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材会社の献立を利用しており栄養のバランスは考慮されている。食事摂取量を記録しており、その方の状態により水分摂取量の記録をし、好みの飲み物やお茶ゼリーを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ご本人の力に応じ声かけ、介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録により排泄パターンの把握をし、トイレの声かけ、誘導をしている。プライバシーに配慮した声かけをしている。	排泄の自立に向けた取組みは、チェック表を活用して支援している。夜間はポータブルトイレを利用する人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況を記録し繊維質の食物摂取、朝の冷たい牛乳や乳酸菌飲料の摂取をしている。個々の状態により散歩、腹部マッサージ、体操等を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望に沿うように支援している。拒否のある場合はタイミングを図って声かけ入浴を楽しめるよう支援している。入浴のない日は足浴している。	基本的には週3回の入浴となっている。入浴を拒否する場合は、無理強いせず、時間や声かけに工夫している。入浴できない時は、足浴や清拭を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡の必要な方には状況に応じ臥床休養できるよう支援している。入床前は安眠できるよう落ち着いた対応をしている。夜間覚醒、不眠時は寄り添いお茶や牛乳を出し、個別対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤の用法、副作用について研修で学んでいる。その方に合わせた服薬支援をしている。症状に変化のある時は主治医に相談し、薬の変更がある場合全スタッフで共有し確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きな事、楽しめることを表情、言葉、行動より観察し常に勘案している。外出時いきいきとした表情がみられ安全を考慮し少人数での喫茶、買い物等への外出支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩へはほぼ毎日出かけている。月1回の外出、外食の企画を希望を取り入れて立て、出かけている。バス旅行等遠出の外出はボランティアの協力を呼びかけ外出支援している。	散歩や喫茶店、外食、コンビニに出かけた後、家族やボランティアの協力を得て出かける機会を増やしている。利用者の意見や要望を聞き、希望に沿えるようにしており、季節に合った行事を取り入れ、外で楽しむことができる企画を立てている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の金銭管理能力を把握し御家族と相談の上対応している。必需品、嗜好品等買い物できるよう立替払いし支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけ話ができるようにしている。また友人やご家族の協力を得て電話して頂き話ができるよう取り次いでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱のないよう表示を工夫している。季節感を感じられるよう職員とご入居者が一緒に貼り絵等掲示物を作り展示している。	日差しのあるリビングは、季節を感じられる飾り物やちぎり絵が飾られている。利用者が好きな場所で寛げるようイスやソファが配置され、居心地良く落ち着ける共有空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを配置し独りで過ごせる空間作りをしている。独歩での歩行困難な方には相性の良い人と座れるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具等ご持参頂き馴染みの環境を整えている。ご仏壇や思い出深い写真、人形等を配置し心地よく暮せるようにしている。	利用者が馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる環境作りを行っている。安全に配慮し、乾燥にも注意を払っている。家族の写真やレクリエーションで作った作品なども飾られて、過ごし易い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表札やトイレ等の表示は職員とご入居者で作成し、解りやすいよう工夫している。建物内部は自由に行き来できるようご自身でエレベーターを使い移動できるようにしている。		